

県高校総合文化祭の将棋部門 加古川北高、団体で初V

11月に姫路市で開かれた「第46回兵庫県高等学校総合文化祭」の将棋部門で、加古川北高校(加古川市野口町水足)の囲碁・将棋部が、団体戦で初優勝を果たした。メンバーで2年の迫川広行さん(17)と芝原功輝さん(16)、1年の角野甲乙さん(16)の3人は「とにかくうれしい。優勝だけを狙っていました」と喜ぶ。(児玉友友)

団体戦は3人一組。昨年の同じ大会ではメンバーがそろわず、1年生だった芝原さんと迫川さんの2人で臨んだ。1人少ないため毎試合1敗するハンデイを負いながらも、準優勝。4月から経験者の角野さんが加わり、「今年こそは」と燃えていたという。

今大会は県内22校が出場。4連勝した高校同士が決勝戦に進んだ。決勝は、強豪の灘高校や白陵高校を破った雲雀丘高校

県大会で初優勝した加古川北高校囲碁・将棋部の3人＝加古川北高校



(宝塚市)との対戦。主将芝原さんが1勝したが、角野さんが惜敗。優勝は部長・迫川さんの対局に委ねられた。

「優勝だけを狙っていた」 昨年は2人で準優勝

序盤から、相手の持ち駒が多く、守りの体制を整え切れずに劣勢だった迫川さん。2人の結果を知りつつも、「自分の試合だけに集中しよう」と強気で攻め続け、戦局をひっくり返して勝利をつかんだ。

芝原さんは今大会負けなし。2人も1敗ずつという好成績だった。

3人は小学生の頃から、加古川市在住でプロ棋士の井上慶太九段が主宰の道場「加古川将棋倶楽部」に通い、それぞれ将棋部のなかった中学でも鍛錬を続けてきた。今は、初心者を含めた部員6人の囲碁・将棋部で対局するほか、家でインターネット対戦、詰め将棋など個人練習も重ねて、腕を磨く。

3人は、早くも次の大会を見据える。今回の優勝で、来年春季にある「県高校将棋選手権大会」のシード権を獲得。同大会で優勝すれば、憧れの全国大会に出場できる。「県大会を勝ち抜いて、さらなる強豪と戦ってみた」。一人一人が一層、将棋への情熱をたぎらせている。

はりま カルチャー